

# 語用論

PRAGMATICS

## 参考文献

郡司隆男 他 (1998) 『岩波講座 言語の科学4 意味』岩波書店

池上嘉彦 (1975) 『意味論』大修館書店

リーチ (1977) 『現代意味論』研究社

杉本孝司 (1998) 『形式意味論』くろしお出版

ポルツィヒ 他 (1975) 『現代ドイツ意味理論の源流』大修館書店

サピア、ウォーフ 他 (1970) 『文化人類学と言語学』弘文堂

### 〔語の意味の分析〕

柴田 武 他 (1976) 『ことばの意味 辞書に書いてないこと』平凡社 (平凡社ライブラリー版、2002)

柴田 武 他 (1979) 『ことばの意味2 辞書に書いてないこと』平凡社 (平凡社ライブラリー版、2003)

国広哲弥 他 (1982) 『ことばの意味3 辞書に書いてないこと』平凡社 (平凡社ライブラリー版、2003)

### 〔認知意味論〕

レイコフ 他 (1986) 『レトリックと人生』大修館書店

大堀寿夫 (2002) 『認知言語学』東京大学出版会

杉本孝司 (1998) 『認知意味論』くろしお出版

辻 幸夫 (編) (2001) 『ことばの認知科学事典』大修館書店

辻 幸夫 (編) (2002) 『認知言語学キーワード事典』研究社

ウンゲラー、シュミット (1998) 『認知言語学入門』大修館書店

## 1 語用論とは

話し手は場面、文脈、知識、常識などの情報 (コンテキスト) を考慮に入れながら、なんらかの意図を持って発話する。聞き手はコンテキストを考慮しながら、話し手の発した言葉の意味や意図を解釈しようとする。

意味論がコンテキストから離れて語や文の意味を扱うのに対し (ラング)、語用論では具体的な発話の場面における意味を考察する (パロール)。すなわち、言葉の使われ方を研究する。一例をあげれば、「午後から雨らしいよ」という文は文字通りの意味 (言内の意味) では「午後から雨が降るという情報を得た。私は今それを伝えている」ということである。その言葉が、

A 「今日の天気は？」

B 「午後から雨らしいよ。」

という文脈で使われればその文字通りの意味と同様に解釈されるが、

A 「いってきま〜す。」

B 「午後から雨らしいよ。」

であれば「傘を持っていきなさい」という言外の意味が生じる。状況によっては「洗濯物が外に出てるけど、中に入れて出かけたほうがいいよ」という意味にもなりうる。さらに、

A「今日は買い物に行かなくちゃ。」

B「午後から雨らしいよ。」

であれば、「買い物は午前中に行った方がいい」と解釈される。このような意味はその言葉が発せられた状況や以前から持っている知識によって理解されるので、意味論の扱う範囲を超えたものである。

## 2 発話行為理論 Speech act theory

発話は物事を記述するだけでなく何らかの行為を遂行する機能も持つということをオースティン (J. L. Austin) が指摘した。たとえば、「車が来ます」とか「この海にはサメがいます」というのは、それだけでは町の状景や海の生態の描写・記述のようだが、ある状況においてはその言葉が発することによって「警告」という行為（「危ないから、よける」、「危ないから、ここで泳ぐな」）をおこなっている。同様に、「レポートはあした必ず提出します」というのは、今晚がんばって終わらせてあした出すことに決めているという自分の心の中の状態を記述しているのではなく、相手に対して「約束」という行為を遂行している。「おめでとうございます」というのも、それを言うこと自体によって「祝福」という行為がおこなわれるのである。さらに、「第××回全国空手選手権大会を開催する」、「××君を内閣総理大臣に任命する」といった言葉は、適切な状況で適切な人物がそれを発することによって「開会」、「任命」という行為がおこ

なわれる。

オースティンは、遂行される言語行為を次の3つに分類した。

(a) 発語行為 (locutionary act)

(b) 発語内行為 (illocutionary act)

(c) 発語媒介行為 (perlocutionary act)

たとえば、海岸で泳ごうとしている人に対して「この海にはサメがいます」という発言は、それを音声的・文法的に正しく発すること (= 発語行為) によりその文字通りの意味が伝えられ、それと同時に「警告」という行為 (= 発語内行為) がおこなわれ、聞き手の気持ちや行動に影響を及ぼす (= 発語媒介行為) というのである。このように、警告・約束・祝福・命令・要求・その他の行為を示す発語内行為をおこなうために用いられる文を行為遂行的 (performative)、状況を描写・記述する文を事実確認的 (constative) と呼んで区別した。事実確認的な文は内容が真か偽かという基準によって判断できるのに対して、行為遂行的な文 (遂行文と呼ぶ) は適切か不適切か (felicitous/unfelicitous) によって判断される。(しかし、結果的にはどの文にも行為遂行的な機能が備わっていると、この区別は大きな意味を持たない。)

このオースティンの理論は、後にサール (J. R. Searle) によりさらに発展させられた。

## 3 会話の含意 Conversational implicature

発せられた言葉を聞いたとき、人間はなぜそこで表現されていないことも理解するのか、すなわち、言外の意味がいかんして生じるのか、